



Dell PowerConnect W-AP175P 設置ガイド

Dell PowerConnect W-AP175P は、回復機能を持ち、環境条件に対する耐性を備えた、デュアル無線デュアルバンド IEEE 802.11 a/b/g/n 規格屋外用ワイヤレスアクセスポイントです。この屋外用アクセスポイントは、Dell の包括的ワイヤレスネットワーク用ラインアップである PowerConnect W-Series の一部です。W-AP175P は Dell PowerConnect W-Series コントローラとの組み合わせで機能し、AP の管理、構成、アップグレードをコントローラで一元的に行うことができます。



メモ: W-AP175P には ArubaOS 5.0.3 以降が必要です。

ガイドの概要

- [2 ページの「W-AP175P ハードウェアの概要」](#) では、W-AP175P の詳細なハードウェアの概要について説明します。
- [4 ページの「屋外運用の計画および展開のための考慮事項」](#) では、屋外ワイヤレスネットワークを展開する際の主な疑問点と、考慮事項について説明します。
- [6 ページの「W-AP175P の設置」](#) では、W-AP175P を正しく設置および展開するための手順について段階的に説明します。
- [13 ページの「安全性および規制準拠」](#) では、安全および規制準拠に関する情報について説明します。

W-AP175P の運用

- ワイヤレスアクセスポイント (IEEE 802.11 a/b/g/n)
- ワイヤレス空気モニター (IEEE 802.11 a/b/g/n)
- エンタープライズメッシュポイント
- エンタープライズメッシュポータル
- プロトコルに依存しないネットワーク機能
- W-AP175P: IEEE 802.3at 対応の Power over Ethernet+ (PoE+)



メモ: W-AP175 は、802.3at の定格電圧で最大 18W (ヒーティングモード) を出力します。通常運用時の最大消費電力は 12.5W です。

パッケージの内容

- W-AP175P アクセスポイント
- W-AP175P マウント用ブラケット
- 遮光板
- 支柱用アンカー x 2
- M4 x 16 ボルト、平ワッシャー、バネワッシャー x 4 (遮光板に取り付けられています)
- M6 x 30 ボルト、平ワッシャー、バネワッシャー x 2
- M4 x 12 ボルト、外歯付きワッシャー、OT 銅ラグ x 1

- M8 x 110 ボルト、平ワッシャー、バネワッシャー、ナット x 4
- 設置ガイド

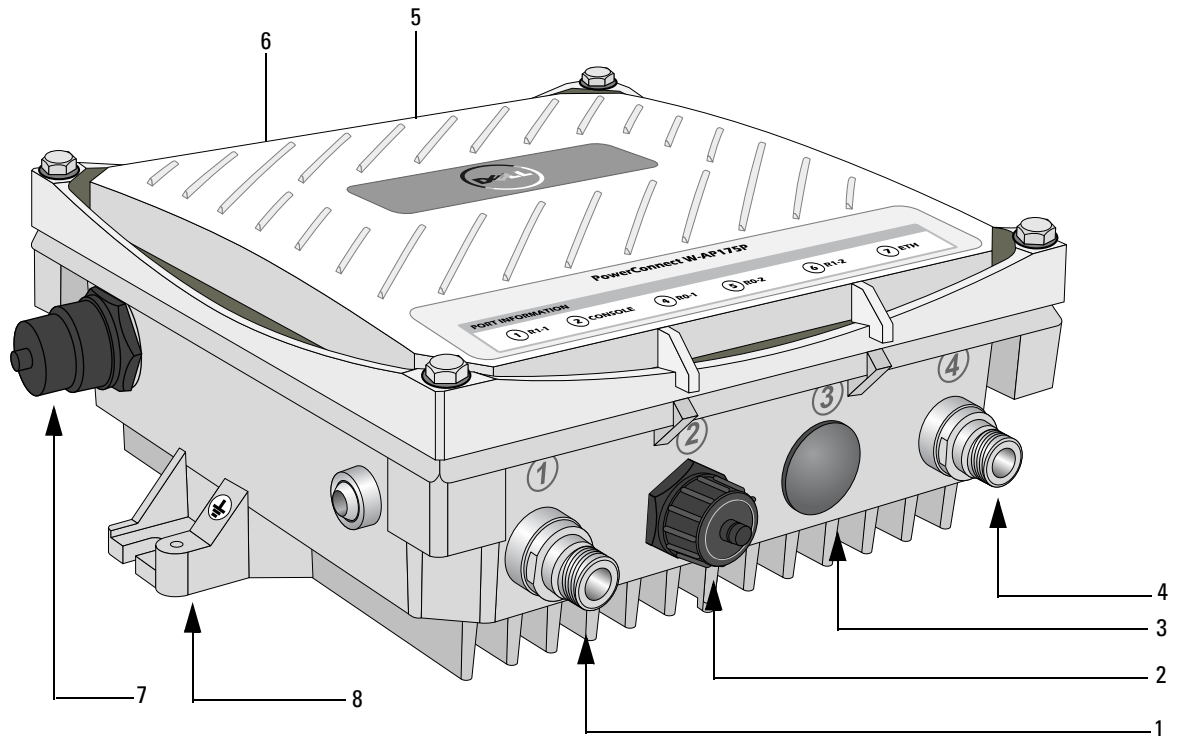


メモ: 内容が違っている場合、不足している場合、または破損している場合は、サプライヤに連絡してください。必要な場合は、元の梱包資材および箱を使用して (可能な場合) パッケージを梱包し、サプライヤに返送してください。

W-AP175P ハードウェアの概要

次のセクションでは、W-AP175P のハードウェアの特徴について説明します。

図 1 W-AP175P の外観



- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 無線 1 アンテナインターフェイス (R0-2) | 5 無線 0 アンテナインターフェイス (R0-2) |
| 2 USB コンソールインターフェイス (CONSOLE) | 6 無線アンテナインターフェイス (R1-2) |
| 3 未使用 | 7 イーサネットインターフェイス (ETH) |
| 4 無線 0 アンテナインターフェイス (R0-1) | 8 アース点 |

アンテナインターフェイス

W-AP175P では、取り外し可能な屋外仕様アンテナを使用する必要があります。使用する周波数帯 (2.4 または 5 GHz) および目的の運用範囲に対応する適切なタイプのアンテナを選択します。

W-AP175P には、AP 上部に 2 つ、下部に 2 つ、合計 4 つのメス N 型アンテナインターフェイスが装備されています。インターフェイスはダイバーシティ実現のため 2 つずつグループ化され、一方のペアには R0 (無線 0)、もう一方には R1 (無線 1) とマークされています。R0 は 5 GHz 周波数帯に対応し、R1 は 2.4 GHz 周波数帯に対応します。

USB コンソールインターフェイス

USB シリアルコンソールポートは、ローカル管理を直接行うターミナルに接続するために提供されています。ターミナルにアクセスするには、次のように設定します。

表1 コンソールの設定

ボーレート	データビット	パリティ	ストップビット	フロー制御
9600	8	なし	1	なし

イーサネットインターフェイス

W-AP175P には、有線ネットワーク接続用の 10/100/1000Base-T Gigabit イーサネットポートが装備されています。W-AP175P では、このポートが IEEE 802.3at Power over Ethernet (PoE+) にも対応し、Midspan インジェクタなどの給電装置 (PSE) からの 48 V DC を標準の定義済み Powered Device (PD) として受け入れます。

アース点

W-AP175P には必ずアース線を取り付けて保護してください。アース線は、W-AP175P の筐体に電源を接続する前に取り付ける必要があります。アクセスポイントのアース点と地面との間の抵抗が 5 オーム未満であることを確認してください。

LED ステータスインジケータ

W-AP175P には、電源、リンク、および無線のステータスを表示するインジケータがあります。また、無線周波数帯ごとに受信信号強度 (RSSI) を示す 4 つの LED があります。



メモ: RSSI LED インジケータは RSSI レベルの変動を点灯する LED の数で示します。信号が受信されない場合は LED が点灯せず、信号強度が最大の場合は LED が 4 つ点灯します。

図2 LED のレイアウト

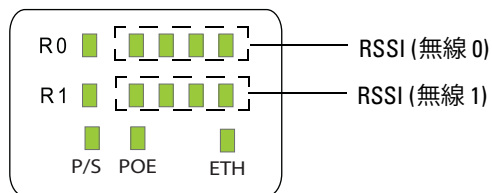


表2 は、W-AP175P 屋外用アクセスポイントの LED 表示の意味を示します。

表2 W-AP175 の LED の状態

LED	機能	インジケータ	ステータス
P/S	AP の電源/準備完了ステータス	オフ	AP に電源が投入されていない
		点滅	デバイス起動中、準備未了
		点灯	デバイス準備完了

LED	機能	インジケータ	ステータス
ETH	イーサネット/ネットワークリンクステータス	オフ	イーサネットリンク使用不能
		点灯 (オレンジ)	10/100 Mbps イーサネットリンクネゴシエーション完了
		点灯 (緑)	1000 Mbps イーサネットリンクネゴシエーション完了
		点滅	イーサネットリンク上にトラフィックあり
R0	無線 0 のステータス	オフ	無線 0 無効
		点灯 (オレンジ)	無線 0 が WLAN モードで有効
		点滅	無線 0 は空気モニター (AM) モード
R1	無線 1 のステータス	オフ	無線 1 無効
		点灯 (青)	無線 1 が WLAN モードで有効
		点滅	無線 1 は空気モニター (AM) モード
RSSI (無線 0)	無線 0 の RSSI レベル	オフ	無線 0 無効/信号なし
		4 段階のレベル表示 (赤) 25/50/75/100%	信号強度が増加するごとに LED が 1 つずつ点灯し、信号強度が最大 (100%) になると LED が 4 つ点灯します。 最小データレート (1 Mbps): LED 1 つ 最大データレート (300 Mbps): LED 4 つ
RSSI (無線 1)	無線 1 の RSSI レベル	オフ	無線 1 無効/信号なし
		4 段階のレベル表示 (青) 25/50/75/100%	信号強度が増加するごとに LED が 1 つずつ点灯し、信号強度が最大 (100%) になると LED が 4 つ点灯します。 最小データレート (1 Mbps): LED 1 つ 最大データレート (300 Mbps): LED 4 つ

屋外運用の計画および展開のための考慮事項

屋外ワイヤレスネットワークを展開する前に、Dell WLAN を正しく展開するための環境評価を行う必要があります。適切な環境評価を行うことにより、Dell AP とアンテナを正しく選択し、最適な無線運用範囲を実現するための配置の決定に役立ちます。この手順は WLAN または無線の運用に関する計画であり、屋外での運用計画は Dell のシステムエンジニアがサポートします。

スケージングの要件

屋外での展開はスケールが非常に大きくなる可能性があり、通常の屋内展開ではそれほど重要視されない、以下の要因の考慮が必要となります。

- 範囲 (距離): 計画段階で、運用範囲 (AP 間の距離) を考慮する必要があります。屋外環境では、AP をマウントできる場所を柔軟に設定できない場合があります。屋外でのこのような制約にかかわらず、ARM、効率的なクライアントローミング、フェイルオーバーなど、Dell の高度な機能をサポートする、屋内環境と同様の「濃密な」無線展開を実現することが理想的な目標です。
- 上下差: 正しく展開するには、AP と AP、および AP とクライアントの上下差を適切に考慮し、計画することも重要です。上下差の計画を行うには、運用環境に展開するアンテナの電波到達範囲を立体的に理解することが重要です。
- 移動体の考慮: 無線環境は日によって変化する場合があります。屋外展開の計画では、大型トラックや自動車、その他の大きな移動物体などの移動体を考慮に入れる必要があります。

既知の RF 吸収材/反射材/干渉源の特定

計画および展開の際は、既知の RF 吸収材/反射材/干渉源を特定することが重要です。屋外環境では、RF 吸収材/反射材/干渉源が屋内環境より少ないですが、AP を屋外に設置してマウントする際には、これらの素材や発生源を必ず特定して、考慮に入れてください。

RF 吸収材の例

- セメント/コンクリート
- 自然物: 樹木/植物
- 煉瓦

RF 反射材の例

- 金属: 屋根に設置された空調機器、金網のフェンス (網目の大きさによって異なる)、鉄条網、水道管など

RF 干渉源の例

- 近くで運用されている他の 802.11a/b/g/n またはブロードバンドアクセス機器
- 加熱や物性変更のために無線電波を使用する工業用 RF 溶接装置または他の工業、科学、医療用 (ISM) 機器
- 軍用、民間航空用、または気象用レーダーシステム



注意: 上空の送電線の近くにアンテナ塔や柱などを建設しないでください。



メモ: アンテナ塔などの高い建造物の建設には法令による規制がある場合があります。ワイヤレスネットワークの展開でアンテナ塔や柱が必要な場合は、専門業者に相談してください。

アンテナの位置と方向に関する考慮事項

アクセスポイントの正確な位置の決定には、いくつかの要因が影響する場合があります。

- 他の無線アンテナをアクセスポイントから 2 m (6 フィート) 以上離します。これには他の WiFi 無線アンテナも含まれます。
- アクセスポイントは送電線や電話線から離して設置します。
- 屋根に設置された空調機器、着色ガラスの窓、鉄条網、水道管などの金属の反射面にアクセスポイントを近づけすぎないでください。これらの物体からは 1.5 m 以上離してください。

無線干渉に関する考慮事項

ワイヤレスリンクの計画では、無線による干渉を避けることが重要です。干渉は、同一または近接するチャンネル周波数を使用する他の無線送信機によって発生します。最初に目的の設置場所をスキャンして、同じチャンネル周波数を使用している強い無線信号があるかどうか確認する必要があります。

天候および環境に関する考慮事項

ワイヤレスブリッジまたはメッシュリンクを計画する場合、設置場所で影響を受けることがわかっている極端な天候条件を考慮に入れる必要があります。以下のような要因を考慮します。

- -30°C 以下、または 55°C 以上の気温
- 時速 265 km を超える風速
- 雷: 誘導雷サージから機器を保護するには、W-AP175P の無線インターフェイスポートに避雷装置が必要です。

- W-API75P は、以下の影響を受けやすい場所から離して設置してください: 高温、ほこり、有毒ガス、可燃物、爆発物、電磁波の干渉 (大出力のレーダー、ラジオ局、トランスなど)、不安定な電圧、振動、騒音など。工学設計上、設置場所を設定するには、ネットワークの計画および通信機器の技術要件、および気候、水利、地質、地震の影響、電力、交通などの条件に従う必要があります。



注意: 誘導雷サージから機器を保護するため、Dell 製避雷器 AP-LAR-1 を各アンテナに取り付ける必要があります。AP-LAR-1 を使用しない場合、Dell 屋外 AP モデルに対する保証が無効となり、AP が誘導雷サージによる障害を受けやすくなります。

- 雨: アクセスポイントは全天候型で降雨に耐えられるように設計されていますが、湿気の侵入を防ぐため、ポートの周囲に耐水性のシーリングテープを巻くことをお勧めします。コネクタに液体が浸入すると、機器の性能が低下したり、リンクが完全に失われる恐れがあります。
- 雪および氷: アクセスポイントやアンテナに雪が積もったり、氷が張らないようにしてください。

イーサネットケーブルに関する考慮事項

適切なアンテナの位置を決定したら、屋外のワイヤレスブリッジまたはメッシュリンクから適切な電源およびネットワークへのケーブル敷設経路を計画する必要があります。

以下のような点を考慮します。

- イーサネットケーブルの長さが 90 m (295 フィート) を超えないようにしてください。
- 建物内への侵入地点を決定します (該当する場合)。
- 安全またはケーブル保護のため、導管や支柱などが必要かどうかを確認します。
- 電源への接続部を雷から保護するため、ケーブルが建物へ侵入する地点の直前に避雷器を取り付けることを考慮します。

アースに関する考慮事項

アクセスポイント、ケーブル、その他の支持部材に適切なアースを設置することが重要です。W-API75P アクセスポイントには、アース線を取り付けるためのネジが付属しています。国または地域の電気工事規定を満たすアースが使用可能であることを確認してください。アクセスポイントにケーブルなどを接続する前に、アース棒を敷設してアースを取ってください。

W-API75P の設置



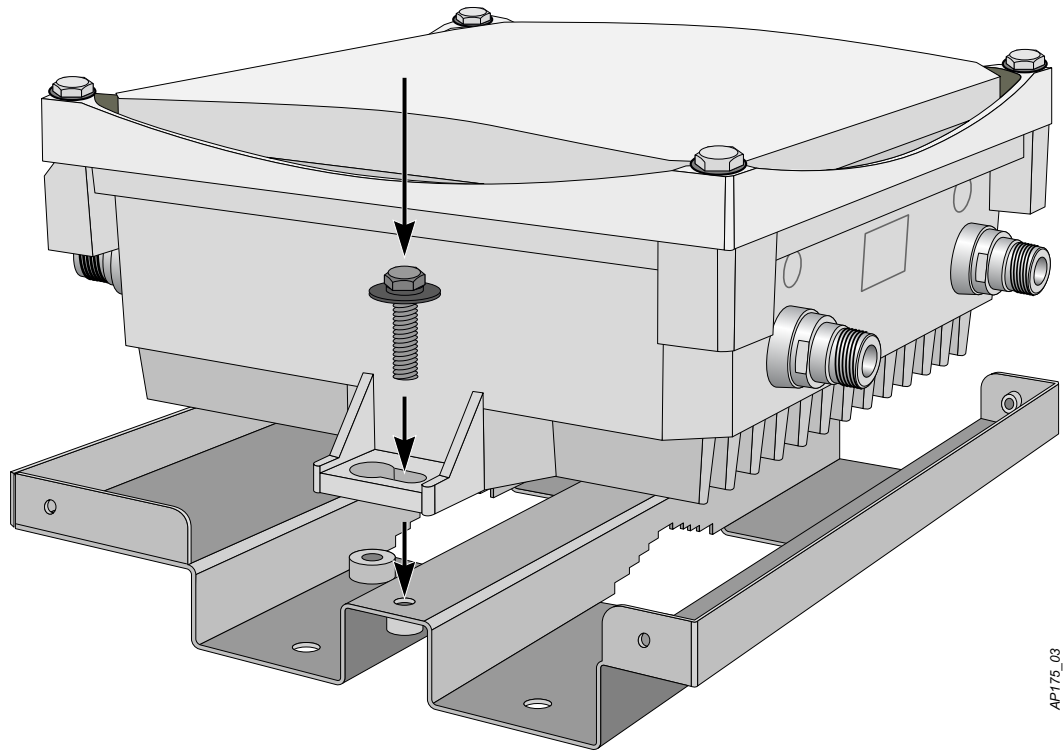
注意: ほとんどの修理は、認定を受けたサービス技術者のみが行います。製品マニュアルで認められている場合、またはサービス/サポートチームからオンラインや電話で指示された場合にのみ、トラブルシューティングや簡単な修理を実行してください。Dell が許可しないサービスによる損傷は、保証の対象とはなりません。製品に付属する安全に関する指示を読み、これに従ってください。

W-API75P は壁に設置することも、支柱に取り付けることもできます。次のセクションでは、必要なハードウェアを AP に取り付ける方法と、AP を選択した場所にマウントする方法について説明します。

W-API75P の支柱への設置

1. 付属の M6 x30 ボルト 2 本 (および平ワッシャーとバネワッシャー) を両側に取り付けて、W-API75P をマウント用ブラケットに固定します。

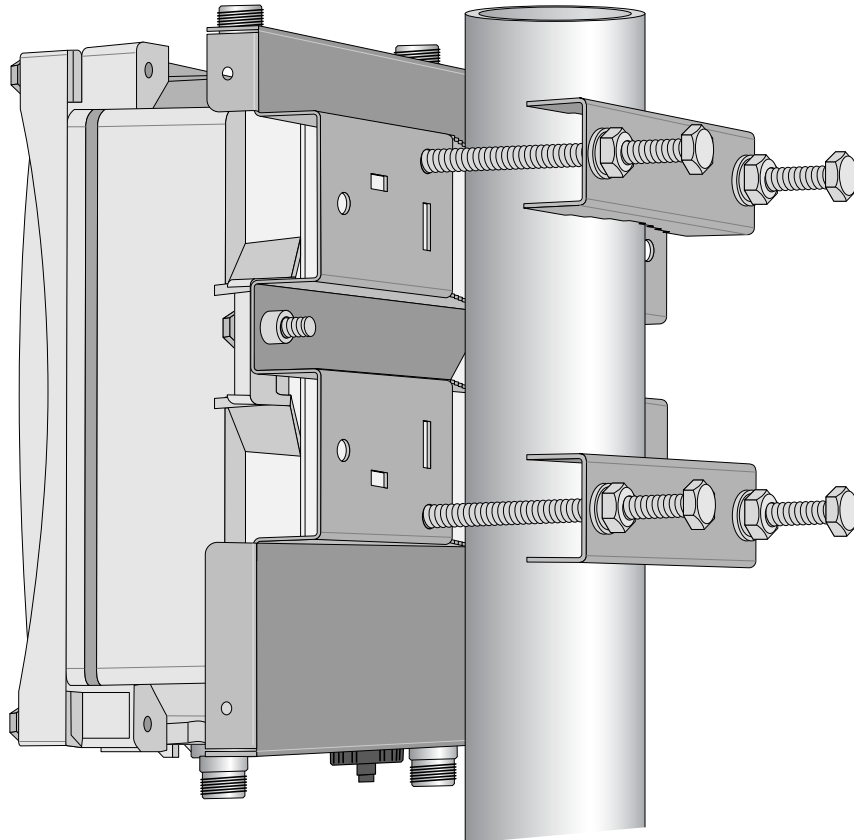
図3 APへのマウント用ブラケットの取り付け



AP175_03

2. 付属の M8 x110 ボルト 4 本 (および平ワッシャー、バネワッシャー、ナット)、および支柱用アンカー 2 個を使用して、マウント用ブラケット (W-AP175P を固定したもの) を支柱に取り付けます。

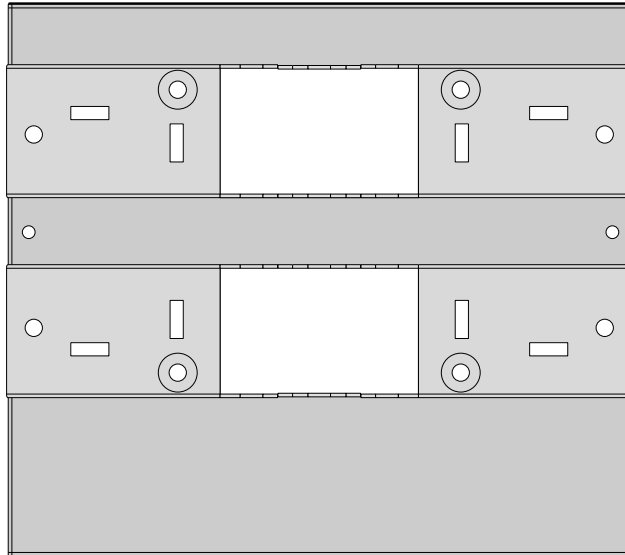
図4 支柱へのマウント用ブラケットの取り付け



W-AP175P の壁への設置

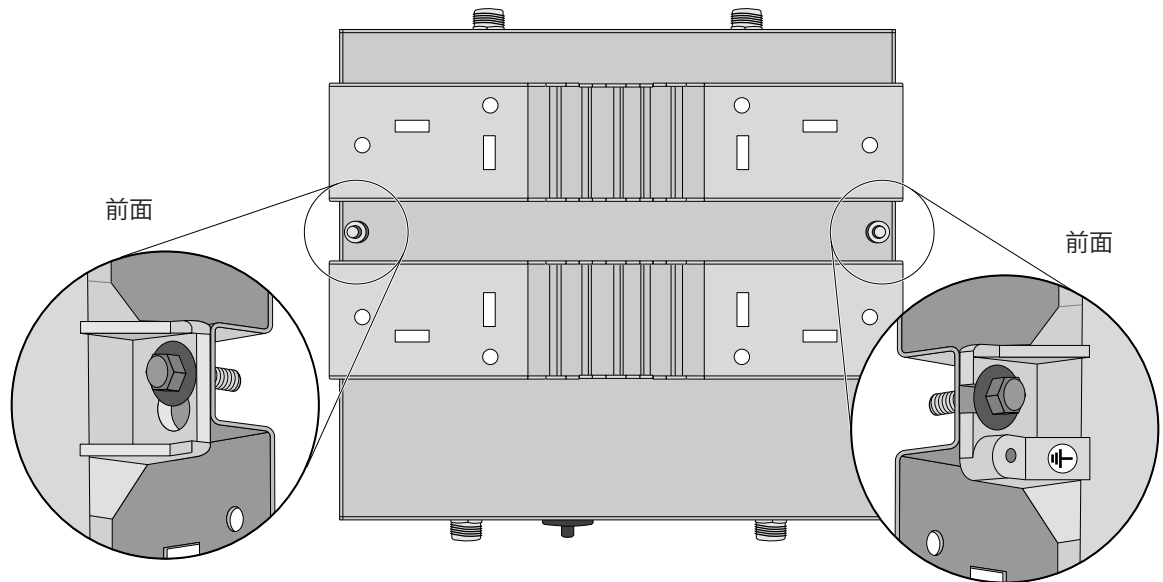
- 最初に、選択した設置場所の壁にネジ穴の目印を付けます。
 - 壁に取り付ける位置にマウント用ブラケットを置きます。
 - ネジ穴 4 箇所の位置に印を付けます。

図 5 ネジ穴の位置



- 前の手順で目印を付けた 4 箇所の位置にドリルで穴を開けます。
- コンクリート壁用アンカーを取り付けます。
 - ドリル穴にコンクリート壁用アンカーを差し込みます。
 - アンカーの平らな頭が壁に完全に埋まるまで、アンカーをゴムハンマーで叩きます。
- マウント用ブラケットを壁に取り付けます。
 - マウント用ブラケットの 4 つの穴をアンカーに合わせて、取り付け穴にネジを通してアンカーに差し込みます。
 - マウント用ブラケットの位置を調整して、ネジを締めます。
- 付属の M6 x30 ボルト 2 本 (および平ワッシャーとバネワッシャー) を W-AP175P の穴に差し込んで、ボルトを締めてマウント用ブラケットに固定します。

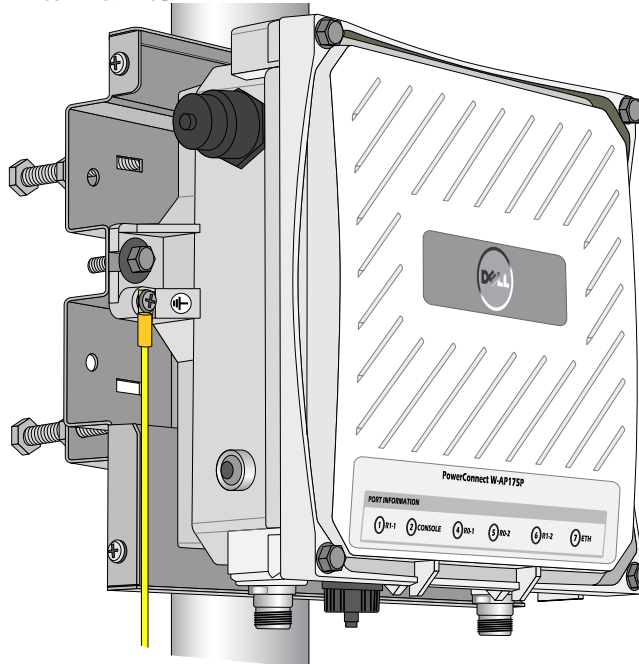
図6 マウント用ブラケットへのAPの取り付け



W-AP175P へのアース線の取り付け

アースの設置は、W-AP175P に電源を投入する前に完了する必要があります。アース線は、抵抗が5オーム未満で太さが6 mm 以上のものを使用してください。アース線を取り付ける穴は W-AP175P の右側にあります。

図7 W-AP175P へのアース線の取り付け



1. アース線 (太さ 6 mm 以上のものを別途ご用意ください) の片側の被膜をはがして、バラ線の先に銅ラグを取り付けて圧着工具でしっかり締めます。
2. 付属の M4 x12 ボルトと外歯付きワッシャーを使用して、銅ラグを W-AP175P のアース線取り付け穴に固定します。

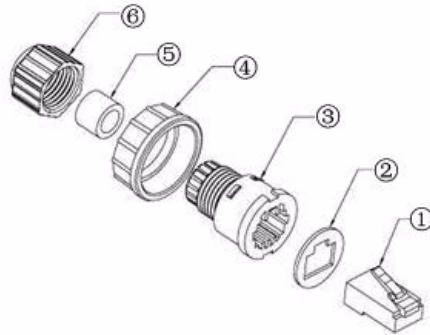
イーサネットケーブルの接続

W-AP175P のイーサネット接続および Power over Ethernet (PoE) を維持するには、付属の全天候型コネクタキットを以下の手順に従って取り付ける必要があります。



警告: 付属の全天候型コネクタキットを使用しない場合、接続と電源の問題が発生する恐れがあります。

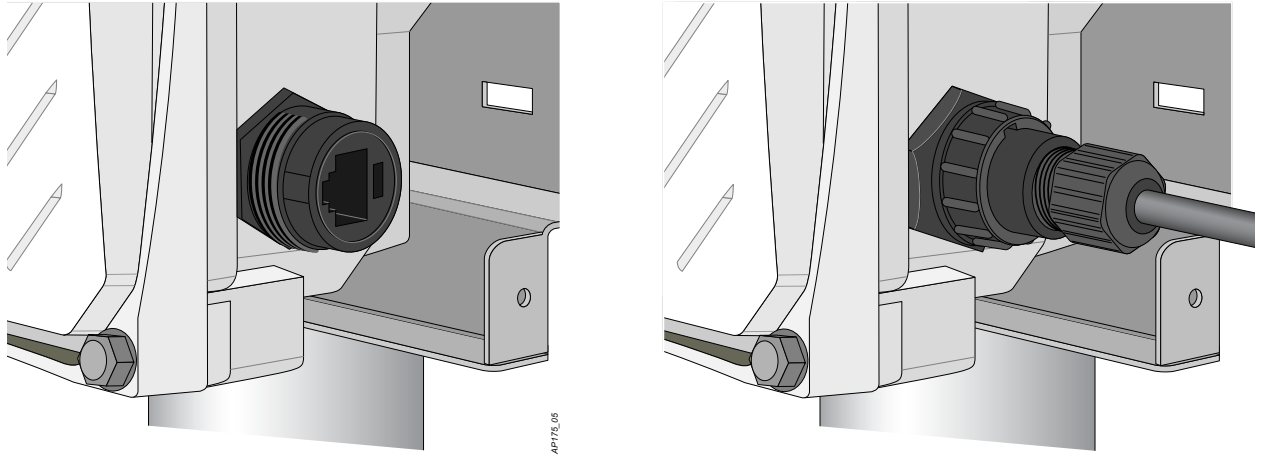
図 8 防水型イーサネットコネクタカバー



- | | |
|-----------------|------------|
| 1 RJ45 シールドコネクタ | 4 ロックナット |
| 2 ガasketマット | 5 シールリング |
| 3 防水コネクタソケット | 6 シーリングナット |

1. ガasketマットの粘着面からカバーをはがし、防水コネクタソケットの中に入れます。
2. ロックナットを防水コネクタソケットの上にかぶせます。
3. シーリングナットにイーサネットケーブル (コネクタが取り付けられていない端末) を通します。
4. シールリングにイーサネットケーブルを通します。
5. イーサネットケーブルを防水コネクタソケットの細い開口部から広い開口部に向かって通します。
6. 圧着工具を使用して、付属の RJ45 シールドコネクタを取り付けます。
7. イーサネットケーブルに通したシールリングを防水コネクタソケットの細い開口部に差し込みます。
8. イーサネットケーブルを引いて、防水コネクタソケットの RJ45 コネクタ用切り込みに RJ45 シールドコネクタを差し込みます。
9. シーリングナットを防水コネクタソケットの細い側にかぶせて、手で締めます。
10. イーサネットケーブルのコネクタをイーサネットインターフェイスに接続して、ロックナットを手で絞めます。
11. 耐水性のテープ、PVC 絶縁テープ、粘着テープなどでイーサネットケーブルの接続部を防水します。

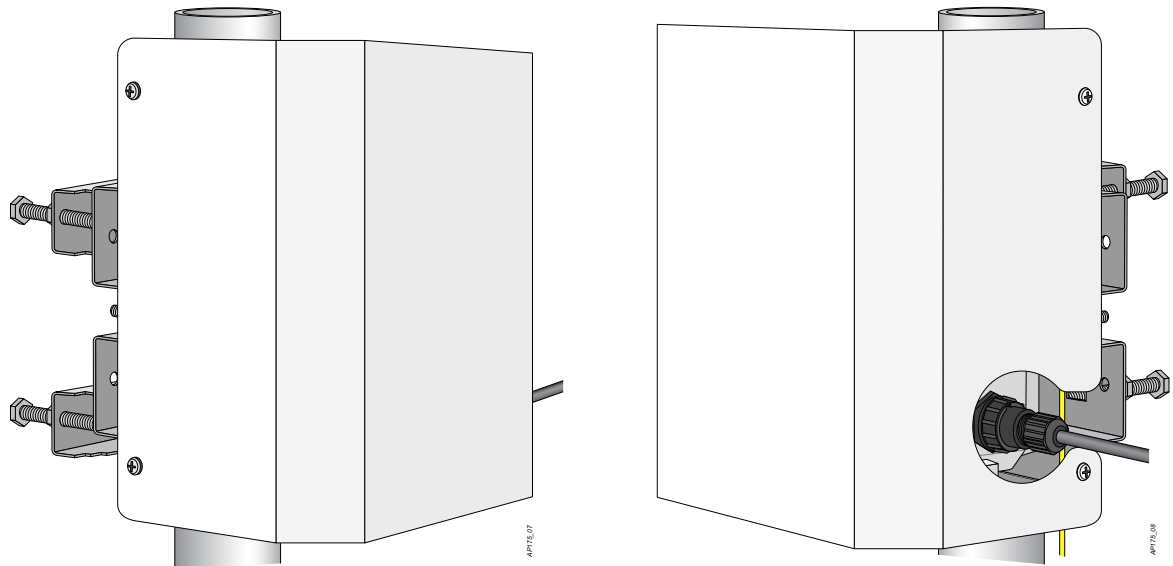
図9 イーサネットケーブルの接続



W-AP175P への遮光板の取り付け

付属の M4 x16 ボルト 4 本 (および平ワッシャーとバネワッシャー) を使用して、遮光板を W-AP175P に取り付けます。

図10 AP への遮光板の取り付け



製品仕様

機械部

- 寸法 (高 x 幅 x 奥行)
 - 10.2 インチ x 9.4 インチ x 4.1 インチ
 - 26 cm x 24 cm x 10.5 cm
- 重量: 3.25 kg/7 ポンド
- 梱包寸法 (高 x 幅 x 奥行)
 - 12.9 インチ x 12.6 インチ x 11.8 インチ
 - 33 cm x 32 cm x 30 cm
- 梱包重量: 7.5 kg/16.6 ポンド
- 温度
 - 使用時: 30°C ~ 55°C (22°F ~ 131°F)
 - 保管時: -40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
- 相対湿度: 5% ~ 95% (結露なし)
- 高度: 最大 3,000 メートル (9,850 フィート)
- 設置方法: 壁または支柱に設置
- アンテナ:
 - 外部アンテナ用にメス N 型インターフェイス 4 箇所 (2 x 2.4 GHz、2 x 5GHz) (MIMO 対応)
 - 外部アンテナ展開用にフィーダーケーブルを使用可能
- 視覚的なステータスインジケータ (LED): [表 2](#) を参照

電子部

- 48 V DC 802.3at 対応の Power over Ethernet (PoE+)

インターフェイス

- ネットワーク:
 - 10/100/1000BASE-T イーサネット (RJ-45) x 1、リンク速度および MDI/MDX 自動検知
- 電源:
 - DC 電源コネクタ x 1 (AP-175DC モデルのみ)
 - AC 電源コネクタ x 1 (AP-175AC モデルのみ)
- アンテナ:
 - メス N 型アンテナインターフェイス x 4
- その他:
 - USB コンソールインターフェイス x 1

ワイヤレス LAN

- AP タイプ: デュアル無線デュアルバンド 802.11n 屋外用
- サポートされる周波数帯 (国別の規制を適用):
 - 2.400 ~ 2.4835 GHz
 - 5.150 ~ 5.250 GHz
 - 5.250 ~ 5.350 GHz
 - 5.470 ~ 5.725 GHz
 - 5.725 ~ 5.850 GHz
- 使用可能チャンネル: コントローラによる管理 (構成を運用する地域の規制に準拠)
- サポートされる無線技術:
 - 802.11b: 直接拡散方式 (DSSS)
 - 802.11a/g: 直交波周波数分割多重方式 (OFDM)
 - 802.11n: 2x2 MIMO (2 空間ストリーム)
- サポートされるモジュレーションのタイプ:
 - 802.11b: BPSK、QPSK、CCK
 - 802.11a/g/n: BPSK、QPSK、16-QAM、64-QAM
- 送信出力: 増分 0.5 dBm で構成可能
- 最大送信出力:
 - 2.4 GHz: 25 dBm (地域条例により制限)
 - 5 GHz: 25 dBm (地域条例により制限)
- 最大比合成 (MRC) による受信機性能の向上
- アソシエーションレート (Mbps):
 - 802.11b: 1、2、5.5、11
 - 802.11a/g: 6、9、12、18、24、36、48、54
 - 802.11n: MCS0 - MCS15 (6.5 Mbps ~ 300 Mbps)
- 802.11n High-Throughput (HT) サポート: HT 20/40
- 802.11n パケット集合: A-MPDU、A-MSDU

安全性および規制準拠

Dell Networks は、国固有の規制および追加の安全性と規制情報を含む多言語ドキュメントをすべての Dell アクセスポイントで提供しています。このドキュメントは、次のサイトでの参照またはダウンロードが可能です: dell.com



注意: RF 放射に関する声明: 本製品は、FCC RF 放射制限に準拠しています。本製品を 2.4 GHz および 5 GHz で運用する場合、放射体とユーザーの身体との距離は 35 cm (13.78 インチ) 以上にしてください。このトランスミッタは、その他のアンテナまたはトランスミッタと一緒に設置または運用しないでください。5.15 ~ 5.25 GHz の周波数で運用する場合、移動体衛星システムとの有害な干渉を軽減するために、このデバイスは室内での使用に制限されます。



注意: Dell アクセスポイントおよび AP-LAR-1 避雷器の取り付けは、専門業者が行う必要があります。専門の取り付けスタッフは、該当する電気工事規定を満たすアースが使用可能であることを確認する必要があります。



警告: 雷が発生しているときは、AP の操作、または接続や取り外しの作業を行わないでください。

FCC Class B デバイス

この機器は、FCC 規則の Part 15 に準じた Class B デジタルデバイスの制限に関する試験に適合しています。これらの制限は、住居への設置における有害な干渉からの保護を提供するために設定されています。この機器は、無線周波数エネルギーを生成および使用し、および無線周波数エネルギーを放射する可能性があります。適切な手順に従って設置および使用しない場合、無線通信で有害な干渉が発生することがあります。しかし、特定の設置において干渉が発生しないという保証はありません。この機器によって無線またはテレビ電波の受信に有害な干渉が発生した場合（機器の電源投入および切断によって確認できます）、ユーザーは以下の手段を使用して干渉を修正することが推奨されます。

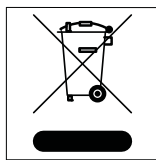
- 受信アンテナの向きを変える、または設置場所を変更する。
- 機器と受信機の距離を離す。
- 受信機が接続されている電源コンセントとは別のコンセントに機器を接続する。
- ラジオ/テレビの販売店または技術者にサポートを依頼する。

国固有の規制の完全なリストについては、Dell 代理店にお問い合わせください。

Dell 製機器の適切な廃棄

Global Environmental Compliance および Dell 製品に関する最新情報については、dell.com を参照してください。

電気設備および電子機器の廃棄



EU 加盟国、ノルウェー、およびスイスで Dell 製品を廃棄する場合、左側に示すマークを貼付し、個別に回収および処理を行う必要があります。これらの国で対象製品の処理を行う場合は、WEEE (Waste of Electrical and Electronic Equipment) 2002/96EC 指令が導入されている国の該当する国際法に準拠する必要があります。

欧州連合 RoHS

RoHS

Dell 製品は、EU Restriction of Hazardous Substances Directive 2002/95/EC (RoHS) にも準拠しています。EU RoHS は、電気機器および電子機器の製造における特定の危険物質の使用を制限する指令です。特に、RoHS 指令で制限されている物質は、鉛（印刷基板アセンブリで使用されるはんだを含む）、カドミウム、水銀、六価クロム、およびブロムです。一部の Dell 製品は、RoHS 指令の付録 7 に記載されている例外の対象です（印刷基板アセンブリで使用するはんだの鉛）。左側に示す“RoHS”のラベルが添付された製品およびパッケージは、この指令に準拠していることを示します。

このページは意図的に空白にしています。

サポート連絡先

Web サイトサポート	
Web サイトトップ	dell.com
サポート Web サイト	support.dell.com
Dell ドキュメント	support.dell.com/manuals

Copyright

© 2011 Aruba Networks, Inc. AirWave®, Aruba Networks®, Aruba Mobility Management System®, およびその他の登録商標は Aruba Networks, Inc. の商標です。Dell™、DELL™ ロゴ、および PowerConnect™ は Dell Inc. の商標です。いかなる方法でも、Dell Inc. の書面による許可なくこれらの文書を複製することは固く禁じます。

All rights reserved. 本書に記載された仕様は、予告なく変更されることがあります。

米国製。本書に記載されているその他の商標は、それぞれの所有者に帰属します。

オープンソースコード

一部の Aruba 製品には、GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL)、およびその他のオープンソースライセンスの対象となるソフトウェアコードを含むサードパーティ製のオープンソースソフトウェアコードが含まれています。使用されているオープンソースコードは、以下のサイトで参照できます。

http://www.arubanetworks.com/open_source

法的通知

個人または企業による Aruba Networks, Inc. スイッチングプラットフォームおよびソフトウェアの使用によって生じるその他のベンダの VPN クライアントデバイスが排除された場合、このアクションに対するその個人または企業の責任の完全な受諾を伴い、これらのベンダの代理として著作権の侵害に関して Aruba Networks, Inc. に対して適用される可能性のあるすべての合法的なアクションを補償するものとします。